



## 2023年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月14日

上場会社名 朝日インテック株式会社 上場取引所 東・名  
 コード番号 7747 URL http://www.asahi-intecc.co.jp/  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)宮田昌彦  
 問合せ先責任者 (役職名)取締役管理本部長 (氏名)伊藤瑞穂 (TEL) (0561) 48-5551  
 四半期報告書提出予定日 2023年2月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年6月期第2四半期の連結業績(2022年7月1日~2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		のれん償却額等を除く営業利益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年6月期第2四半期	45,435	20.5	10,901	22.4	9,951	22.8	9,621	11.9	7,473	17.0
2022年6月期第2四半期	37,702	33.2	8,902	42.2	8,106	31.0	8,595	41.0	6,385	43.5

(注) 包括利益 2023年6月期第2四半期7,115百万円(△2.0%) 2022年6月期第2四半期7,264百万円(57.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年6月期第2四半期	27.52	—
2022年6月期第2四半期	23.54	23.53

(注) 前第3四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理が確定したため、前第2四半期連結累計期間の数値について遡及修正しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年6月期第2四半期	159,431	124,985	77.3
2022年6月期	155,127	121,130	77.0

(参考) 自己資本 2023年6月期第2四半期123,243百万円 2022年6月期119,459百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年6月期	—	0.00	—	11.99	11.99
2023年6月期	—	0.00	—	—	—
2023年6月期(予想)	—	—	—	13.71	13.71

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年6月期の連結業績予想(2022年7月1日~2023年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		のれん償却額等を除く営業利益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	89,339	14.9	19,163	13.4	17,433	14.4	17,423	6.7	12,405	14.3	45.67

(注) 1 のれん償却額等を除く営業利益=営業利益+のれん償却額等

2 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) 、除外 — 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

23年6月期2Q	271,633,600株	22年6月期	271,633,600株
23年6月期2Q	7,878株	22年6月期	7,878株
23年6月期2Q	271,625,722株	22年6月期2Q	271,165,915株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(会計方針の変更)	9
(追加情報)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10
(企業結合等関係)	10
(収益認識関係)	11
(重要な後発事象)	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当社は、低侵襲治療を究極的に追究することで、医師や患者様のQOLの向上を目指し、2026年6月期において連結売上高1,000億円を超えることを目標に、新中期経営計画「ASAHI Going Beyond 1000」にて、以下の4つの基本方針を定め、10年後を見据えて更に長期的に成長するための事業ポートフォリオの構築を進めております。

- ①グローバル市場の戦略的な開拓と患部・治療領域の拡大
- ②グローバルニッチ市場における新規事業の創出
- ③グローバル展開に最適な研究開発・生産体制の構築
- ④持続的成長に向けた経営基盤の確立

事業ポートフォリオの構築として、「グローバル市場の戦略的な開拓と患部・治療領域の拡大」を引き続き推進することで、これまでの基本戦略の集大成を図り、既存事業の収益基盤を強化いたします。また、将来に向けた成長への投資を継続することにより「グローバルニッチ市場における新規事業の創出」を実現し、グローバル市場における当社のプレゼンスの強化と企業価値の一層の向上を目指します。その成長戦略を支えるためのビジネス基盤として、「グローバル展開に最適な研究開発・生産体制の構築」を進めるとともに、「持続的成長に向けた経営基盤の確立」を図ってまいります。

その実現に向けた施策として、当第2四半期連結累計期間では、①Penumbra Inc. (米国)の末梢血管用血栓吸引デバイスの日本市場における独占販売に向けた基本合意書を締結、②DK MEDTECH(蘇州)有限公司の「DK Score冠動脈スコアリングバルーン拡張カテーテル」の中国市場での独占販売契約を締結、③当社グループとして初の「統合報告書2022」を発行、④レイクR&D株式会社の株式取得(非連結子会社化)に係る譲渡契約の締結、などを実施いたしました。今後におきましても、中期経営計画に基づく成長戦略を着実に進めていくことにより、企業価値の向上を目指してまいります。

上記の様な環境の中、当社グループの当第2四半期連結累計期間における売上高は、新型コロナウイルス感染症の影響により縮小した市場規模が前年同期比で回復傾向にあることや、為替が円安に推移したこと、市場ニーズの増加などにより、海外売上高が大幅に増加し、454億35百万円(前年同期比20.5%増)となりました。

売上総利益は、売上高の増加に伴い、300億40百万円(同20.0%増)となりました。

営業利益は、売上高の増加や海外市場での販促活動強化に伴う営業関係費用の増加、開発強化のための研究開発費の増加などにより、販売費及び一般管理費が増加したものの、99億51百万円(同22.8%増)となりました。

経常利益は、為替差損が増加したものの、96億21百万円(同11.9%増)となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、段階取得に係る差益6億15百万円が減少するものの、セブ工場の台風被害に伴う災害保険金収入3億5百万円の計上やセブ工場被災による損失の減少などにより、74億73百万円(同17.0%増)となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間における外国為替レート実績は、下記となります。

1 米ドル=139.97円(前年同期111.91円、比25.1%増)

1 ユーロ=141.84円(前年同期129.96円、比9.1%増)

1 中国元=20.03円(前年同期17.40円、比15.1%増)

1 タイバーツ=3.85円(前年同期3.38円、比13.9%増)

セグメントごとの経営業績は次のとおりであります。

(メディカル事業)

メディカル事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により縮小した市場規模が前年同期比で回復傾向にあることや、為替が円安に推移したこと、海外を中心とした市場ニーズの増加などにより、売上高は増加いたしました。

国内市場においては、医療償還価格の下落が発生したこと、並びにOEM取引の減少などにより、売上高は減少いたしました。

海外市場においては、循環器系領域が全地域において、PCIガイドワイヤーや貫通カテーテルを中心に大変順調に推移したことや、非循環器系領域についても、中国は代理店の在庫調整のため減少したものの、それ以外の地域において順調に推移し、売上高は増加いたしました。

以上の結果、売上高は396億95百万円(前年同期比19.8%増)となりました。

また、セグメント利益は、87億5百万円(同15.9%増)となりました。

(デバイス事業)

デバイス事業は、新型コロナウイルス感染症の影響からの回復による市場ニーズの増加や、為替が円安に推移したことなどにより、医療部材を中心に売上高は大幅に増加いたしました。

医療部材については、国内市場において、顧客の在庫調整などにより売上高が横ばいに推移いたしましたが、海外市場において、米国企業向け循環器系超音波カテーテル部材及び循環器系検査用カテーテル部材の取引が増加したことなどから、売上高は増加いたしました。

産業部材につきましては、海外市場において、レジャー関連取引が好調に推移いたしましたが、国内市場において、建築関連およびOA機器関連の取引が減少したことから、売上高は横ばいに推移いたしました。

以上の結果、売上高は、57億40百万円(前年同期比26.0%増)となりました。

また、セグメント利益は、外部売上高及びセグメント間売上高の増加により、33億89百万円(同31.7%増)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の資産につきましては、総資産額が1,594億31百万円となり、前連結会計年度末に比べ43億3百万円増加しております。

主な要因は、現金及び預金が22億74百万円、商品及び製品が9億32百万円、有形固定資産その他が10億61百万円それぞれ増加したことによるものであります。

負債につきましては、負債合計額が344億45百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億49百万円増加しております。主な要因は、支払手形及び買掛金が6億24百万円、流動負債その他が4億54百万円、長期借入金が2億23百万円それぞれ減少した一方、短期借入金が17億1百万円増加したことによるものであります。

純資産につきましては、純資産合計額が1,249億85百万円となり、前連結会計年度末に比べ38億54百万円増加しております。主な要因は、為替換算調整勘定が4億61百万円減少したものの、利益剰余金が42億17百万円増加したことによるものであります。

なお、前第3四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理が確定したため、前第2四半期連結累計期間の数値について遡及修正した数値と比較しております。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間の売上高・営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する四半期純利益は、為替が円安に推移したことなどから、当初予想に比べて好調に推移いたしましたが、通期の連結業績予想の見通しにつきましては、中国のゼロコロナ政策解除の影響による症例数動向が不透明なことや、為替動向などを複合的に考慮し、2022年8月12日に公表いたしました業績予想からの修正は行っておりません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	32,321	34,596
受取手形及び売掛金	13,987	14,615
電子記録債権	1,607	1,605
有価証券	-	2,000
商品及び製品	7,294	8,226
仕掛品	12,493	12,773
原材料及び貯蔵品	7,168	7,189
その他	4,933	4,526
貸倒引当金	△196	△221
流動資産合計	79,609	85,311
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	21,698	21,318
その他（純額）	23,863	24,925
有形固定資産合計	45,561	46,244
無形固定資産		
のれん	8,200	7,832
その他	11,157	10,548
無形固定資産合計	19,358	18,381
投資その他の資産	10,598	9,494
固定資産合計	75,517	74,119
資産合計	155,127	159,431

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,180	2,555
電子記録債務	700	767
短期借入金	5,815	7,517
未払法人税等	2,927	2,874
賞与引当金	1,371	1,307
その他	6,766	6,312
流動負債合計	20,761	21,334
固定負債		
長期借入金	6,364	6,140
役員退職慰労引当金	20	19
退職給付に係る負債	2,033	2,151
その他	4,816	4,798
固定負債合計	13,234	13,110
負債合計	33,996	34,445
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	18,860	18,860
資本剰余金	21,727	21,727
利益剰余金	69,018	73,235
自己株式	△7	△7
株主資本合計	109,599	113,816
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,872	1,900
為替換算調整勘定	7,898	7,437
退職給付に係る調整累計額	89	88
その他の包括利益累計額合計	9,860	9,427
非支配株主持分	1,670	1,741
純資産合計	121,130	124,985
負債純資産合計	155,127	159,431

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年7月1日 至2021年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年7月1日 至2022年12月31日)
売上高	37,702	45,435
売上原価	12,678	15,395
売上総利益	25,023	30,040
販売費及び一般管理費	16,917	20,088
営業利益	8,106	9,951
営業外収益		
受取利息	8	12
受取配当金	26	32
為替差益	475	-
その他	159	65
営業外収益合計	670	110
営業外費用		
支払利息	69	103
為替差損	-	265
株式交付費	82	-
その他	30	72
営業外費用合計	182	440
経常利益	8,595	9,621
特別利益		
段階取得に係る差益	615	-
災害保険金	-	305
特別利益合計	615	305
特別損失		
投資有価証券評価損	137	71
災害による損失	249	-
ゴルフ会員権評価損	-	1
特別損失合計	386	72
税金等調整前四半期純利益	8,824	9,854
法人税、住民税及び事業税	2,439	2,613
法人税等調整額	△73	△308
法人税等合計	2,365	2,305
四半期純利益	6,458	7,548
非支配株主に帰属する四半期純利益	72	75
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,385	7,473



四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	6,458	7,548
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	452	28
為替換算調整勘定	343	△461
退職給付に係る調整額	10	△0
その他の包括利益合計	806	△433
四半期包括利益	7,264	7,115
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,192	7,042
非支配株主に係る四半期包括利益	72	73

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	8,824	9,854
減価償却費	3,194	3,711
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△61	△59
支払利息	69	103
のれん償却額	496	595
災害保険金	—	△305
売上債権の増減額 (△は増加)	△804	△838
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△1,181	△1,457
仕入債務の増減額 (△は減少)	421	△555
未収消費税等の増減額 (△は増加)	470	728
未払金の増減額 (△は減少)	△589	△143
未収入金の増減額 (△は増加)	431	224
その他	16	△675
小計	11,287	11,181
利息及び配当金の受取額	35	45
利息の支払額	△51	△196
保険金の受取額	—	305
法人税等の支払額	△1,544	△2,671
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,727	8,665
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△4,021	△3,407
無形固定資産の取得による支出	△137	△244
投資有価証券の取得による支出	△97	△194
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△6,929	—
その他	4	△1,016
投資活動によるキャッシュ・フロー	△11,182	△4,862
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△1,550	1,995
長期借入れによる収入	5,262	—
長期借入金の返済による支出	△312	△245
配当金の支払額	△2,994	△3,256
新株予約権の行使による株式の発行による収入	12,383	—
リース債務の返済による支出	△76	△71
その他	△4	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	12,708	△1,577
現金及び現金同等物に係る換算差額	70	49
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	11,323	2,274
現金及び現金同等物の期首残高	21,358	32,321
現金及び現金同等物の四半期末残高	32,682	34,596

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(米国会計基準ASU第2016-02「リース」の適用)

米国会計基準を採用している一部の在外連結子会社において、米国会計基準ASU第2016-02「リース」を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。これにより、当該連結子会社における借手のリース取引については、原則としてすべてのリースを貸借対照表に資産及び負債として計上することといたしました。当該会計基準の適用にあたっては、経過措置で認められている、当該会計基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しております。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の有形固定資産の「その他」が390百万円、流動負債の「その他」が96百万円、固定負債の「その他」が293百万円それぞれ増加しております。

なお、当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染拡大に伴う影響に関しましては、前連結会計年度の有価証券報告書の追加情報に記載した内容から、重要な変更はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	メディカル事業	デバイス事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	33,146	4,555	37,702	—	37,702
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	6,534	6,534	△6,534	—
計	33,146	11,090	44,236	△6,534	37,702
セグメント利益	7,509	2,573	10,082	△1,975	8,106

- (注) 1 セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- 2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
- 3 前第3四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理が確定したため、前第2四半期連結累計期間の数値について遡及修正しております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	メディカル事業	デバイス事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	39,695	5,740	45,435	—	45,435
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	7,655	7,655	△7,655	—
計	39,695	13,396	53,091	△7,655	45,435
セグメント利益	8,705	3,389	12,094	△2,142	9,951

- (注) 1 セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- 2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(企業結合等関係)

(企業結合に係る暫定的な会計処理の確定)

2021年7月1日に行われたPathways Medical Corporationとの企業結合について、前第2四半期連結会計期間において暫定的な会計処理を行っていましたが、前第3四半期連結会計期間に確定しております。この暫定的な会計処理の確定に伴い、当第2四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に含まれる比較情報において、取得原価の当初配分額に重要な見直しが反映されております。

この結果、暫定的に算定されたのれんの金額884千米ドル(101百万円)は、会計処理の確定により1,190千米ドル(136百万円)増加し、2,074千米ドル(238百万円)となっております。のれんの増加は無形固定資産1,700千米ドル(195百万円)及び固定負債510千米ドル(58百万円)がそれぞれ減少したことによります。

なお、前第2四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書に与える影響額は軽微であります。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(1) 種類別の内訳

前第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント		
	メディカル事業	デバイス事業	計
循環器	25,141	—	25,141
非循環器	5,200	—	5,200
OEM	2,803	—	2,803
医療部材	—	2,285	2,285
産業部材	—	2,270	2,270
合計	33,146	4,555	37,702

当第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント		
	メディカル事業	デバイス事業	計
循環器	30,096	—	30,096
非循環器	6,048	—	6,048
OEM	3,550	—	3,550
医療部材	—	3,450	3,450
産業部材	—	2,290	2,290
合計	39,695	5,740	45,435

## (2) 地域別の内訳

前第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント		
	メディカル事業	デバイス事業	計
日本	7,253	1,588	8,842
北米	6,610	1,395	8,005
欧州	7,517	221	7,738
中国	7,687	127	7,814
その他	4,076	1,223	5,300
合計	33,146	4,555	37,702

当第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント		
	メディカル事業	デバイス事業	計
日本	6,600	1,427	8,027
北米	8,845	2,190	11,036
欧州	8,643	188	8,832
中国	9,889	283	10,172
その他	5,716	1,650	7,367
合計	39,695	5,740	45,435

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。